

和賀江嶋でビーチコーミング

～浜辺ですてきな宝物探し～

鎌倉の海を中心に活動しておられる山田海人さんに、ビーチコーミングの魅力をご案内いただきましょう。

ビーチコーミングとは、海岸で漂着物を探して歩くことをいいます。「コーム」とは、髪の毛をとくのに使う櫛(くし)を意味する、英語の comb が語源とされています。浜辺を手の櫛でとくように漂着物を拾うことから、「ビーチコーミング」と名付けられました。生きものを観察したり、どうしてここに流れついたのか想いを馳せたり…自由な発想で、海辺の漂着物拾いを楽しんでみましょう。きっと、海の自然や文化について、すてきな発見ができることでしょう。

●和賀江嶋への交通のご案内

鎌倉駅東口の7番バス乗り場から逗子駅行きの京浜急行バスに乗車

→飯島バス停で下車、南へ徒歩約5分で和賀江嶋へ

浜辺でビーチコーミングを楽しみましょう

→帰途は、飯島バス停や材木座バス停よりバスに乗って鎌倉駅へ

※浜辺には、ウィンドサーフィンなどを行う方々のボードが置いてあることもありますので、周囲に注意して歩きましょう

●持ち物・服装：

拾ったものを入れるビニール袋(レジ袋など)、帽子、飲み物、濡れたり汚れたりしてもよい靴



カジキマグロの骨について説明する山田さん



和賀江嶋は、鎌倉時代につくられた港の跡。丸石がたくさん積み重ねられ、大潮の日の干潮のときに、水の上に姿を現します。丸石のすき間に、カニやヤドカリ、魚たちなど、たくさんの生き物がすんでおり、磯遊びを楽しむこともできます。



ビーチコーミングに出かけましょう

ビーチコーミングとは、最近の言葉で英語 "beachcombing" から流行りはじめたものです。一言で言えば「海辺で気に入ったものを拾うこと」ですが、探す、見つける、観察する、考える、調べる…などさまざまな楽しみのある、海辺の遊びです。太陽を浴び、新鮮な空気をいっぱい吸って、「もの」を探して気ままに海を散策してみましょう。

(1) 波打ち際を「もの」を探して歩く

満潮の時に波が届く、砂浜の最も海面から高いところには、波で新しい模様ができていたりなど跡が残っています。ここから波が打ちあげているところまでの間の部分は、波が新しく打ち上げたものを見つけやすい場所です。台風や大しけの後には、幅広い場所にさまざまなものが打ちあがるので、ほかの場所も探してみましょう。

(2) 打ち上げられた「もの」が見えてくる

打ち上げられたものを、次のような視点で分類してみましょう。

打ち上げられたもの

自然のもの

海のもの

石、海藻、貝殻、カニ、ヤドカリ、エビ、ウニ・ヒトデ・魚・海ガメ・海鳥の死骸など。鎌倉にはイルカ・クジラ、魚の骨なども打ちあがります



アカウミガメ

陸のもの

流木、植物の種子、クルミや遠く南方から流れ着いたヤシの実、カタツムリなど。鎌倉では、馬や牛の歯や骨なども打ちあがります



ヤシの実

古いもの

ガラスビンやそのかけらが波でもまれ角が丸くなったシーグラス、絵などが描かれた陶器「染付」のかけら、漁網に使う素焼のおもりなど



古い陶片

最近のもの

レジ袋、たばこの吸い殻、プラスチックなどのゴミ、靴や帽子、ガラスビンやそのかけら、陶磁器、おもちゃ、釣り糸やルアーなど



捨てられた釣具



次のような視点からも分類できます。どんなことに気付くでしょうか？

打ち上げられたもの

漂着物

海水に浮くもの。海面を漂って海流や風に運ばれて移動するため、その多くが遠くから流れ着いたものです。植物の種子、流木、生き物の死骸、漁具、ライター、軽石、ゴミなど



中国語の書かれた浮き

堆積物

海水より比重が重く沈むもの。海底から傾斜に逆らって波打ち際へ押し上げられるのは、水深5m以内のものが限度と考えられます。海底から打ち上げられたシーグラス、貝殻、陶器のかげら、動物の骨、石、缶、魚網など



相模湾で絶滅危惧種になっているベニガイ

(3) 気に入った「もの」だけを拾う

砂浜に打ちあがっている「もの」の中から、気に入ったものを拾って、水洗いし、砂を落として観察してみましょう。お気に入りが見つかったら、持ち帰り、これまでの知識、経験をもとに眺めてみましょう。これがあなたと「もの」との出逢いです。浜辺で興味ある「もの」を見つけると価値観が変化します。何時間でも浜辺で過ごせるようになり、これまで見落としていたものがかいかに多いか気づかされます。幾度も砂浜を歩いていると、少しずつ気に入ったものが貯まってきます。



インクビン

(4) 発見を通じて「もの」のメッセージを受け取る

砂浜を歩いて見つけた「もの」が複数集まると、色、形、大きさなどの変化も気になって、出逢った「もの」への愛着が湧いてきます。本やインターネットで調べたり、図書館、博物館、美術館へ行って仲間を探してみましょう。「もの」の正体が徐々に明らかになって行く過程には、小さな発見がいくつもあります。この「小さな発見」こそが、ビーチコーミングの楽しみの1つです。こうして「もの」と向かい合って感じたことは心へ直に伝わります。あなただけが知り得たこの情報は、「もの」からのメッセージなのです。



目薬のビンのコレクション



ビーチコーミングで出会える鎌倉の海の宝物

鎌倉のような内湾性で遠浅の浜辺では、数十年前、数百年前から海に眠っていた陶器のかけらや動物の骨などが波で打ち上げられやすく、この地の歴史や人々の生活に思いを馳せることができます。また、ヤシの実や回遊するアカウミガメ、外国語の書かれた製品など、海面に漂い、海流によって運ばれてくる漂着物からは、黒潮などの海流や風の影響について思いを馳せることができます。

時間や空間を超えて出会える思いがけない宝物…皆さんが海辺を歩くとき、一体どんな発見が待っているのでしょうか。

* サクラガイ *



「麗しき 桜貝一つ 去り行ける 君にささげん この貝は こぞの浜辺に 君一人 拾いし貝よ…」

土屋花情作詞／八洲秀章作曲の昭和の名曲「さくら貝の歌」は、八洲秀章さんが由比ヶ浜でサクラガイを拾い詠んだ歌から生まれたものです。サクラガイは二枚貝ですが、その多くは繋ぎが切れて殻が別々に打ちあがっています。これを18歳で亡くなった恋人八重子さんと重ね、「わが恋のごとく悲しやさくら貝 片ひらのみのさみしくありて」と歌ったのです。

「サクラガイ」と呼ばれるものには、サクラガイ、モモノハナガイ、オオモモノハナガイ、カバザクラの4種類があります。肉食のツメタガイの食害で小さな穴があいているものが多いですが、鎌倉では、2枚そろっているものが比較的多く拾えます。

* 古い陶器のかけら *

鎌倉の浜辺に打ち上げられる、代表的なものの1つです。鎌倉時代には、高価な陶器であった中国・宋の青磁が、幕府に献上されていました。こうした青磁のかけらが、古い港の跡である和賀江嶋の辺りには今でも打ち上げられています。

船に揺られて運ばれる過程で荒天に遭ったり、和賀江嶋に着いてから荷が解かれるときなどに割れたりして、海に捨てられたものなのかもしれません。



* 馬の歯 *



鎌倉の浜辺には動物の骨などが多く打ちあがります。馬の骨、牛の骨、イルカ・クジラの骨などですが、この中で代表的なのが馬の歯です。

鎌倉時代には、幕府で馬・牛が飼われていました。戦や病気で死んだ馬・牛は海岸近くの「前浜」で処分されたり、馬・牛の捨て場で埋められたりしていました。

これらが大雨で流されたり、がけ崩れなどで流失したりして海へ放出されたと考えられています。

鎌倉時代の馬は、サラブレッドに比べると小さい馬でした。こうした歯には遺伝子情報も含まれているため、貴重なサンプルになります。

* イルカの脊椎骨 *

鎌倉の浜辺では、イルカの脊椎骨も見つかります。中には刃物の跡が残っていて、イルカの肉を食べていたように思われるものもあります。



* ガラスビン *

浜辺には、飲み物、薬、化粧品などを入れるためのさまざまなガラスビンが打ち上がります。

鎌倉の海は水深5m以内の浅い海域が続いており、古い時代から、たくさんの陶器のかけらやガラスビンが砂泥の海底に埋まってきました。台風や荒天時のうねりで海底が巻き返されると、それらは海底に露出し、波で砂浜に打ち寄せられます。

大きな容器は割れてビーチグラスになりやすく、小さな容器は、原型を保ったまま打ちあがる機会が多くあります。ビンの形状、記された商品名、会社名、地名などの情報を読み取ると、流通していた当時の時代考証の参考になります。

海底で何十年も眠るビンの中には、ガラスが海水と貧酸素状態で化学変化を起こし、銀色に煌めくようになるものもあります。この「銀化現象」を起こしたビンは、海底に長く眠っていたことを教えてくれる、海からの貴重な贈り物です。

* ビーチグラス *



* ナミノコガイ *



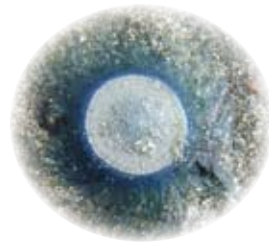
ナミノコガイ（和名はフジノハナガイ）は、波乗りをする貝として知られています。

相模湾では干満で海面が1.5 mほど上がり下がりますが、波打ち際を生活の場としているナミノコガイにとって、砂浜の移動には大変な労力が要ります。そこで、上げ潮の波に乗って3 mほど移動してはサッと砂浜へ潜る…という行動を繰り返して、移動していくのです。

大きな波を音でとらえ、直前に一斉に砂の中からムクムクと現れて波に乗っていく「波乗り行動」を、ぜひ観察してみてください。

* ルリガイ *

夏には浜辺に、ギンカクラゲ（左）が流れ着いていることがあり、これを食べるルリガイ（右）も、そばによく見られます。泡の浮力体で海面を浮き、漂着物の一種といえる、珍しい貝です。



* ひょうちゃん *



横浜崎陽軒のシュウマイ弁当についている醤油入れは、磁器製のヒョウタン型で「ひょうちゃん」の名で親しまれています。昭和22年ごろから昭和44年まで使われ、図柄は80種類もあって、それぞれの時代の変化が読み取れます。目鼻は鎌倉在住の漫画家横山隆一さんなどが描いていました。今でもビーチコーマーに人気のお宝です。

* 岩笛 *

浜辺の小石には、貝が掘った穴が開いていることがあり、穴の具合によっては吹くと笛になるものがあります。これを岩笛と呼びます。なるべく硬い石で、穴がふさがっているものを探しましょう。貫通している穴でも、指でふさぐといい音色が出るものもあります。縄文時代の遺跡からも似たようなものが出土しており、風や波の音の中でも、鋭い音色で遠くまで聞こえます。皆さんも吹いてみませんか？



【引用・写真転載】

ホームページ「海人のビューポート（覗き窓）」<http://chikyu-to-umi.com/kaito/>

ホームページ「山田海人さんの鎌倉レポート」<http://www.kamakuratoday.com/suki/kaito/index.html>